

自分年金を考える③～貯蓄ができる体質になるためには～

ファイナンシャル・プランナー 水野圭子

将来への老後資金として「自分年金」への関心が高まり、セミナーなども各地で開催されています。セミナーに参加することで老後にかかる費用をイメージでき、資産形成をする必要性が高まったものの、貯蓄ができていない現状を嘆く声も耳にします。「家計簿をしっかりとつけていても貯蓄できない」という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。わかってはいるけれど貯蓄ができない方は、一度考え方を変えてみてはいかがでしょうか。

■お金を貯めるしくみ作りとは！？

もらった収入をどのように使うかは人によって千差万別ですが、貯められない方の場合、やりくりした後に「余ったら貯蓄する」傾向があるようです。

$$\times \text{ (収入) - (支出) = (貯蓄) }$$

しかし余ったら貯蓄をする方法だと、つい使ってしまうてなかなか貯まりません。貯蓄していきたいのであれば、もらった収入から貯蓄できる額を別口座へ振り分けます。(先取り貯蓄とも呼ばれます。)そして残ったお金でやりくりをすることで、自動的に、計画的に貯蓄されていくのです。

$$\circ \text{ (収入) - (貯蓄) = (支出) }$$

老後資金を作るとしたら、頑張って節約生活をしなくてはと思いがちですが、上記の様に基本的な考えを変えることで貯蓄がしやすくなります。

ストレスなく自動的に貯めるしくみの一つとして、会社に財形貯蓄制度があれば、お給与から天引きしながら貯めることができます。加入するタイミングは決められているため、総務の方などに確認してみましょう。

☆「一般財形貯蓄」・・・用途も一部解約も自由だが、税金の優遇もありません。

☆「財形年金貯蓄」・・・老後の年金として払い出しの場合、元利合計 550 万円まで非課税。
一部解約はできない。

もし財形制度がないのであれば、銀行の自動積立定期預金を利用することもできます。初

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

回だけ手続きが必要ですが、給与口座から指定日に自動的に振り替えができ、少額でもコツコツ続けることによって、気が付くと貯蓄が貯まっているようになるのです。

では、いくら先取り貯蓄をしたらいいのでしょうか？中には意気込んで積み立てを始めたものの、残ったお金でやりくりができずに、結局貯めた口座から引き出すなんてケースもあります。そのため、先取り貯蓄はできる金額は？いくらで生活などやりくりができるか？などを事前に確認することが必要です。

■まずは1か月の家計を把握しよう！

貯蓄をするためには、わが家の家計現状を知ることが最優先！何にいくら使っているのかを項目別書き出すことによって、中には使途不明金が見つかったり、貯蓄に向けての対策を練ることができます。

		毎月
収入	世帯主収入(手取り)	
	奥様収入(手取り)	
	その他収入	
収入合計		
支出	食品・日用品費	
	水光熱費	
	通信費	
	保険料	
	おこづかい	
	教育費	
	住居費	
支出合計		
貯蓄額		
収支合計		

また、現状把握をすると同時に、家計の見直しをすることで、貯蓄額をさらに高めることができます。家計の見直しとして、少しでも食料品を安く買うなどという節約方法ではなく、毎月引き落としされる固定費を見直した方が効果は高くなります。

<主な固定費の見直し例>

- ☆保険料・・・現在加入している保障内容や保障額が必要かどうか検討。保険料も毎月払いを年払いに変更することで割引となるケースも。
- ☆住宅ローン・・・低金利のため借換えすることで諸経費含めても月々・総支払総額が減るケースがある。
- ☆公共料金・・・携帯電話の料金プラン見直しやお得プランの利用で通信費の削減へ！

さて、消費税関連法の成立をきっかけに家計を見直そうとすご家庭が増えています。2014年4月に消費税も8%になると税率は3%上昇し、約20万円の生活費だと約6000円の負担増になります。早いうちに家計を一度見直すことで、消費税がアップしても家計のダメージは少なくすみそうですね。

消費税負担が増えて益々手取り収入も上がりにくい中、いかにして現役世代の収入で自分年金を作るかは大事になってきます。お金を貯めるだけでなく、お金をふやす資産運用も必要となってきますが、まずは貯めることができる家計にしたいですね。